

## 個に適した居場所づくりについて

### 【東久留米市立 A 中学校の取組】

#### 不登校生徒の状況

対象生徒は、友人関係がうまくいかないことがきっかけとなるが、自己主張が強く周囲との関りを構築する力に課題がある。保護者は「学校に行かせたい」という思いが強く、生徒の心情により添えていない面が見受けられる。

#### 具体的な取組

今年度の学校経営計画の取組目標として、「奇跡の出会いに、心をつなぐ 中学校」と掲げられていることから、生徒や保護者と教員との繋がりを重んじた丁寧な声かけからパイプを繋ぐことを推進する。

月2回実施している校内特別支援委員会を支援会議の一環として組み入れ、不登校生徒の状況の情報交換を行い、結果を全教員で共有する。



年度当初に別室登校（自習教室）への対応の仕方と不登校生徒を生まない学級作りについて、全職員で確認する。

担任と加配教員が連携し、個々の該当生徒や保護者と面談し、意向をくみ取り適応教室や別室登校の取組を紹介し、SCや教育相談に繋げる。

タブレット端末を活用して、生徒が主体的に取り組む授業への改善を進め、学習に対する意欲の向上を図る。

また、協働的な学習を通して互いを尊重することを身に付けきずなを深める。

#### 成果

不登校生の出現率が2ポイント減少した。2年生4人、3年生3人がSCと繋がり相談を行い、継続的に相談しているものもいた。3年生1人がSSWと繋がり、定期的に家庭訪問を行った。3年生2人が適応指導教室に通室している。3年生2人、2年生2人、1年生1人の不登校生徒が別室登校可能となった。個々の意向に合わせた対応が進んだ成果である。

#### 課題

保護者の願いと生徒本人の意向に差があり、生徒の実態に応じた対応策を保護者が受け止めさせることが課題である。また、他者との交わりを避ける生徒が、孤立化せず社会と繋がることの意味を伝えることが課題である。